

平和宣言

さらめく亜熱帯の太陽の下、私たち鶴尾中学校3年団は、ここ沖縄の地に立っています。空の色を映し出したエメラルドグリーンの海。この二つの蒼い色が入り交じった世界を見て、沖縄という地に、数えきれい程の歴史が刻まれているという事実を今、私たちは肌で、そして心で実感しています。

今から六八年前の惨劇は、目を閉じ、耳を澄ましてみると、この地で亡くなった人々の悲痛な叫びとなつて、どこからか聞こえてくるかのようです。沖縄の人々が多くの被害に合い、尊い命を失つたこと、子どもからお年寄りまで、何の罪もない人々が犠牲となつたこと、この戦争によって家族や恋人が引きさかれたこと。私たちは、惨酷なできごとを見つめなおすと共に、戦争を過去のものだけにするのはなく、次の世代へと伝えていかなければなりません。そして、これからの将来を生きていく私たちは、どうしていくべきなのかを考えることが、かけがえのない尊い命を失つた方々にできる、せめてもの「償い」なのではないでしょうか。

あれから六八年の月日が経つた今、今日の社会を振り返つたとき、日本は果たして「平和な国」と、言えるのでしょうか。日本国憲法では、平和に生きる権利が保障されているにもかかわらず、私たちの日常においては、差別やいじめが、どこかで起きています。戦争は、この世における最大且つ最悪の人権侵害。ならば、まず私たちの身の回りの人権を確実なものにすることから始めていきたいと思ひます。

世界中の人々が笑顔になり、悲しい涙を流すことのない、そんな世界になる事を強く願ひ、沖縄の人々の魂の叫び「命どう宝」、すなわち、かけがえのない命を大切にすることをここにお誓ひし、宣言と致します。

最後に、この沖縄において、被害を受けられたすべての人々の心の痛みを分かち合うとともに、この地に眠る犠牲となられた多くの方々のご冥福を心からお祈り申し上げます

二〇一三年七月一九日